

インターンシップのレポート

六月二十六日から七月二十一日まで株式会社フェローズでインターンシップを行った。私の主要な業務は翻訳や校正だ。フェローズは日本的なビジネススタイルなので、日本のビジネスマナーやビジネス文化を学ぶ必要があった。日本のビジネス文化において飲み会がどのような位置を占めているかを学ぶことができた。日本のビジネスについて多くのことを学び、フェローズのインターンとして時間を楽しく過ごすことができた。

企業紹介

フェローズは専門性の高いクリエイティブスペシャリストに対しマネジメントサービスを日本全国で提供している企業だ。フェローズはダブルサイド・エージェントとして、人材が必要な会社とクライアントを結ぶ。ダブルサイド・エージェントの仕事は、コミュニケーションがスムーズに進むようにすることだ。会社は2003年に設立され、そこから順調に成長してきた。会社は多くのプロジェクトに関わっており、独自のプロジェクトを立ち上げたこともある。

フェローズは日本に十四のオフィスを構えるほか、シンガポールとハワイにも拠点を置いている。最近では、シンガポールでの事業の改善に取り組んでいる。国際的に行おうとしている大きなプロジェクトの1つは、フェローズ・フォトグラファーマッチングサービスだ。このサービスでは、さまざまなニーズに合わせてクライアントと撮影者をマッチングする。英語を話す住民の人口が多いシンガポールやハワイでアクセスしやすくするために、サービスウェブサイトを経営することを重要だった。

また、フェローズは将来クリエイターのために映画とミュージカルの分野にビジネスを広げる計画がある。未来の映画監督発掘のために、フェローズフィルムフェスティバル学生部門という短編映画祭も開催している。フェローズが主体となって映画のプロジェクトを進めてもいる。今年、フェローズはディグと一緒に「ファミリア」という映画を撮影した。制作およびデザイン会社である株式会社ディグと共同で映画を制作しました。「ファミリア」は日本に住むブラジル人青年についての映画だ。フェローズの

仲間・子どもミュージカルプロジェクトは、小学生から高校生までの子どもたちのクリエイティブエネルギーと才能を強めることを目的としている。

インターンシップの業務について

私がインターンしていた部署はさまざまな新しいプロジェクトを担当している。その中で、私は新規プロジェクトと国際展開を担当した。より興味深いプロジェクトの1つは、「鮎・和のぎ」という寿司屋のものだ。「鮎・和のぎ」は高級寿司レストラン&バーだ。レストランのウェブサイトは、より多くの人アクセスしやすいように、英語と日本語の両方で提供されている。お寿司に合うお酒も充実していることでも知られている。私は、観光客やその他の英語を話す潜在的な顧客がレストランをより利用しやすくするために、メインのウェブサイトと予約ページの翻訳を手伝った。

フェローズでは勝田さんのもとでインターンシップをさせていただいた。私はフェローズが取り組んでいるプロジェクトの多くを翻訳した。私が行った最初の大きなプロジェクトは、フェローズ・フォトグラファーマッチングサービスのウェブサイトの翻訳だった。私はウェブサイトのトランスクリプトを翻訳することがほとんどだったので、あまりトレーニングを受けなかった。勝田さんは私の翻訳に目を通して、特定の翻訳について質問をしてくださった。

私は月曜日から金曜日まで、10時から7時まで働いた。また、英語のメールを送信する前に校正することもあった。フェローズ・フォトグラファーマッチングサービスのウェブサイトの英訳が完了した後、クリエイター契約書やガイドラインの英訳を始めた。この仕事は私がそれまで取り組んできた翻訳よりも難易度が高く、苦勞した。クリエイター契約書とガイドラインの英語翻訳は、より合法的な日本語であったため、難しいプロジェクトだった。これまで翻訳したことのないスタイルの日本語だった。これらが完了した後、会社案内冊子の英訳に取り掛かった。これは私が担当した最大のプロジェクトであり、完了するまでにほぼ一週間かかった。その間、私は「鮎・和のぎ」ウェブサイトも取り組んだが、その一部はすでに英語になっていた。

さらに、私の課題は日本のビジネス文化について学ぶことだった。これには、適切な挨拶や人々への呼びかけ方を知ることが含まれる。最初は少し難しかったが、インタ

ーンシップに参加しているうちにだんだん分かるようになった。朝オフィスに入るときは、みんなに大きな声で挨拶しなければならない。昼食に出るときも、終業後に帰るときも、同じことをしなければならなかった。最初は少し恥ずかしかったが、慣れてきた。このような文化を通し、日本の会社のチームワークと仲間間の親密さを観察することができた。一緒にランチを食べに行ったり、仕事が終わったら一緒にどこかに行ったりすることもよくあった。

翻訳と校正のほかに、私の最後の仕事はビジネス英語の短い入門クラスを教えることだった。授業計画を作り、レッスンの優先順位を決める必要があるため、これは難しかった。誰もが自分の仕事ややるべきことを抱えていたために、スケジュールを立てるのも大変だった。また、「英語を母国語とする人の前で英語を話すのは恥ずかしい」という理由で参加しない従業員も多く、スピーキングに関する有益なレッスンを提供することも困難だった。

また、その日のタスクの計画や、その日の作業を要約した日報などの日次タスクもあった。私の日々レポートには三つの目的があった。一日の活動を要約すること、明日の活動を計画すること、そしてインターンシップについて毎日どのように感じたかを述べることだった。インターンシップ中、フェローズの社員は私がどのように感じているかに対してとても敏感で、私が大丈夫かどうかを確認した。私のもう1つの毎日の仕事は、語彙と未知の文法形式をリストアップすることだった。これは必須の作業ではないだったが、単語を勉強するのに役立った。

分析

文化の違いによる困難はあったが、特に問題には遭遇しなかったと思う。先ほども話したように、挨拶の仕方など、ビジネス習慣の違いに適応する必要がある。アメリカでは黙ってオフィスに入ることが多いが、日本では自分の存在をアピールすることが重要なため、オフィスに入るときと退社するときは、それを知らせる必要がある。日本のオフィスでは、一般的に人々は直接互いの仕事に関わるが多く、解決策について話し合ったり、メール経由ではなく直接会って仕事をしたりすることが多いようだった。ただし、ニュースを送信したり、相互に連絡したりするためには社内通信システムを使用し

ていた。企業のメールを使用するというよりは、インスタントメッセージングシステムに似ていた。たとえ対面での連絡が望ましいとしても、オンラインコミュニケーションも生産的に利用するのに役立つようで、さまざまなプロジェクトフォーラムや簡単にアクセスできるレポートがあった。

文化の違いは問題ではないので、解決策は必要ではない。人にできる唯一のことは、相手の文化についてもっと学び、心を開いておくことだ。新しい経験に対してオープンであれば、世界についてもっと学ぶことができる。私はかなりオープンな気持ちでインターンシップに参加したが、それでも職場の文化に適応する必要があった。こうした違いに備えるもう一つの方法は、他の人の経験についての本やレポートを読むことだ。これで文化の違いに完全に備えることはできないが、予測をするのには役立つ。オープンな心と適切な予測を？組み合わせることで、文化の違いに適応することができる。人は常に新しいことに積極的に挑戦していくべきだ。そうすることで、人として成長し、学ぶことができる。時には間違いを犯すこともあるが、努力しているのであれば、その努力は評価されるだろう。

学ぶのが最も難しかったのは、翻訳のさまざまなテクニックだった。何かを翻訳するには複数の方法があり、翻訳する方法の文脈を学ぶのは難しい場合がある。インターンシップ中に、ウェブサイトの目的に応じて、さまざまな書類をさまざまな方法で翻訳する方法を学ばなければならなかった。私が翻訳したウェブサイトの多くは、クライアントにサービスを利用してもらうためのものだった。このように翻訳だけではなくサービスのプロモーション業務に携わる際には、言葉の響きを良くし、かつ情報を伝えるという二つの点に重点を置く必要があった。つまり、文字通りに翻訳するのではなく、翻訳プロセス内で意味や語調が失われた場合にそれを補う必要があることを意味する。例えば、フェローズ・フォトグラファーマッチングサービスウェブサイトの翻訳中に、英語に翻訳するのが難しい専門用語がいくつかあったため、相当する英語を見つけなければならなかった。幸い、フェローズ・フォトグラファーマッチングサービスウェブサイトには、その後のプロジェクトとは異なり、英訳のため、通常は同等の単語が存在した。

撮影者向けの契約書も翻訳したが、文書の性質上、より直訳が必要だった。契約書には合意内容を明確に記載する必要があった。これは、言葉を正確に使用して、直接的か

つ理解しやすくすることを意味した。また、契約書には多くの法的用語があり、翻訳がさらに難しくなった。私は同僚の一人に必ず相談して、翻訳が正確であり、必要な情報が伝わっているかどうかを確認した。私の同僚の一人が私の仕事をチェックすると、それが私に送り返され、チェックして必要な変更を加えることができた。多くの場合、ほとんどのプロジェクトは完了したとみなされるまでに少なくとも二回の推敲が行われた。会社案内パンフレットを英訳する時に、多少に英訳した。それから、課長は私の英訳を見た。

ビジネスにおいても、フェローズには独自の語彙があった。私はまだビジネス日本語コースを受講していなかったが、すでに知っていたいくつかのビジネス用語はあまり役に立たなかった。そのために、特に最初の二つのプロジェクトでは、単語リストを作成する必要があった。この語彙リストは最終的にインターンシップの終わりまでに一千語を超える長さになり、私が割り当てられた各プロジェクトに取り組むのに役立った。

私にとって最も長いプロジェクトは会社パンフレットだった。社長兼最高経営責任者の紹介と、会社とその営業に関する一般的な情報から始まった。次に、会社が関与している場所とプロジェクトに関する情報に移った。これは、翻訳する文章量の多さと必要な翻訳スタイルの違いにより、私にとって最も困難なプロジェクトとなった。CEOのメッセージを文字通りに翻訳するのは簡単だったが、原文の含蓄も翻訳する必要があった。ニュアンスを念頭に置くことは、正しく翻訳し、元のメッセージを新しい言語に置き換えるために重要だ。翻訳元の言語をしっかりと理解できない場合、これが問題になる可能性がある。日本語の全てニュアンスを理解していないことが原因である。だからこそ、私が見逃していた隠された意味を勝田さんに教えてもらえたことは非常に有用だった。

正しいニュアンスを学ぶ唯一の方法は、ネイティブスピーカーと話すこと経験だ。言外の意味は通常辞書には載っていないので、それを学ぶのは難しいかもしれないが、文にニュアンスと深みを生み出すのに役立つ。ほとんどの人は母国語の含意に気づいている。それは経験を通して学ぶからだ。外国語を学習しているとき、単語の背後にある意味を理解するのは難しい場合がある。コノテーションとは、その単語が実際に意味するものと対照的に、その単語がどのように感じられるかだ。これは言語を学ぶ上で最も難しい部分の一つであり、翻訳するときにも実践するのは難しい。

例えば、「寿司は乃木」のウェブサイトを翻訳していた時、非常にわかりにくい文章があった。その文とは「秩父・三峯神社でお役目を終えた樹齢二百五十年余の御神木が息づくカウンターで皆さまのお越しをお待ちしております」というものだ。私は「息づく」の意味がよくわからなかったため、最初はこの文に戸惑った。勝田さんにその意味を説明していただき、その後は分かってできたが、最初は非常に困惑した。同様の英語訳はあるが、少し奇妙に聞こえるフレーズを直訳したものを使用するのでは意味がない。意味があり、自然に聞こえるかどうかを確認することが重要であることを学んだ。

翻訳よりも難しかったのは、初級レベルのビジネス英語コースを教えていたときだけだった。フェローズは、最近ハワイとシンガポールの両方にオフィスを開設するなど、事業の国際化に多くの時間を費やしてきた。シンガポールとハワイはどちらも英語を話す人口が多いため、少なくとも基礎的な英語を話し、書ける従業員を雇用することがますます重要になっている。私の仕事は、英語を話す顧客との会話のための基本的なガイドラインを提供することだった。勝田さんはオフィスに役立つ教訓を決めた。最初のレッスンは基本的なメールの構造だった。二番目のレッスンはメールへの返信だった。三回目と四回目は電話の返信と転送の仕方を教えた。これらのレッスンは、従業員が知っておくと便利なスキルであるため選んだ。

英語のレッスンはうまくいったと思う。レッスンを教えているときに私が遭遇した主な問題は、対面での出席率が低く、コースに対する全体的な関心が欠如していることだった。参加した人たちは授業に対して好意的な評価をしてくれて、終了後は私に感謝のメッセージをくれた。人々は英語を英語とする人の前、英語を話すことに恥ずかしいそうだった。英語をネイティブ人の前で間違いを犯すのを恐れていたんだ。オフィスの全員が、周囲の人々に対する社会的意識だった。オフィスの全員も、自分が同僚からどう見られているかを意識していた。この社会的認識は非常に役立ちますが、時には恥ずかしいことになるような学習機会を妨げることもある。また、さまざまな部門が協力して取り組んでいるのを見て、この社会的意識の利点にも気づいた。フェローの作業チームは、アメリカの部門のほとんどよりもよく連携した。

短期間で出席率を向上させる方法はなかった。唯一の方法は、クラスに参加した人々から良い評判を得て、それが英語を練習するのに安全な場所であることを証明する

ことだ。多くの場合、オフィスワーカーは間違いを犯すという自意識が英語のフレーズの学習を妨げているようだった。また、会社員の多くはこれらの英語フレーズを学ぶことが役に立つとは考えていないようだった。

また、参加者が意味を理解し、英語で言ったことに相当する日本語を知ることができるよう、コースを翻訳した。コースの翻訳と指導中に遭遇した問題以外には、ビジネスの運営方法に関しては何の問題も見当たらなかった。組織的な問題はほとんどなく、各部門はスムーズに動いているようだった。ビジネスも順調に進んでいるように見えたが、私が配属された部署は新規プロジェクトを担当する部署で、私はインターンに過ぎず、ビジネスに関することはあまり知らされていなかったため、判断がつかない。

結論

インターンシップは、アメリカと日本のビジネス文化の違いを観察することができ、非常に興味深いものだった。翻訳や同僚とのやり取りを通じて、同僚間の親密さ、効率的なチームワークを観察することができ、それを自分で体験できた。翻訳を通じて、私は文章内の含蓄やニュアンスの重要性、そしてその暗黙の意味を英語に翻訳することの重要性を学んだ。また、クリエイティブな業界と、クリエイティブエージェンシーがどのように働き、運営されているかについて多くのことを学ぶことができた。さらに、多くの社会経験を積み、日本のビジネスにおける同僚間の力関係を知ることができた。機会があれば、またフェローズで仕事をしたいと思っている

ビブリオグラフィー

映画『ファミリア』公式サイト,familiar-movie.jp/.Accessed23Aug.2023.

“FellowsPhotographerMatchingService.”*FELLOWSPhotographerMatchingService* / *FellowsCo.,Ltd.*,FELLOWS,www.fellow-s.co.jp/photographers/en/.Accessed23Aug.2023.

Katherinekostiuk.“8PracticalWaystoLearnAlltheForeignLanguageVocabularyNeededforConversationalFluency.”*FluentULanguageLearning*,FluentU,24Dec.2022,www.fluentu.com/blog/learning-foreign-language-vocabulary/.

Kostas.“WhatAretheMainTechniquesofTranslation?”*Intertranslations*,Intertranslations,21Jan.2021,www.intertranslations.co.uk/what-are-the-main-techniques-of-translation/.

鮎・和のぎ,www.sushi-nogi.com/.Accessed23Aug.2023.